

# 麻しん風しん混合予防接種説明書

## 1 「麻しん風しん混合ワクチン」について

「麻しん」と「風しん」の2種類の混合ワクチンです。



- 麻しん：麻しんに感染した人の「せき」「くしゃみ」などで麻しんウイルスが飛び散り、それを吸い込むことにより感染します。発症するまで約10日の潜伏期間があります。非常に感染力が強く、感染しやすいのでワクチン接種によって麻しんに対する免疫をあらかじめ獲得しておくことが重要です。
  - 〔主な症状〕
    - 発熱（38℃前後が2～4日続き、一時的に解熱後、再び39～40℃の高熱）
    - 鼻水 ○せき ○目やに ○赤い発疹
  - 〔主な合併症〕
    - 気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などの重い合併症を起こす場合があります、現在でも年間に数十例の死亡例が報告されています。
- 風しん：風しんに感染した人の「せき」「くしゃみ」などで風しんウイルスが飛び散り、それを吸い込むことにより感染します。発症するまで約2～3週間の潜伏期間があります。免疫のない妊婦が妊婦初期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、白内障、心臓病、難聴などの障害を持つ赤ちゃんが生まれる可能性が高くなります。
  - 〔主な症状〕
    - 発熱 ○発疹 ○耳の後ろや首などのリンパ節の腫れ
  - 〔主な合併症〕
    - 関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎など

## 2 ワクチンの効果と副反応

- ① 予防接種を受けた子どものうち、95%以上が免疫を得ることができますが、免疫がつき損ねた場合の用心と、年数がたって免疫が下がってくることを防ぐ目的で、2回の接種があります。
- ② 主な副反応として、接種後（数日～約2週間）に発熱や発疹が現れることがありますが、通常1～2日で治まります。他に、注射部位の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応や、じんましん、リンパ節腫脹がみられることがありますが、通常は数日中に消失します。重い副反応としては、極めてまれにショック、アナフィラキシー様症状、けいれんなどがあらわれることがあります。

## 3 予防接種のスケジュール

1期と2期に1回ずつ、計2回接種します。誕生日を迎えたら、できるだけ早めに接種しましょう。

|    | 接種時期                                       | 接種回数  |
|----|--|---|
| 1期 | 生後12か月～24か月未満                              | <br>1回接種 |
| 2期 | 5歳から7歳未満で小学校就学前の1年間<br>(通常、幼稚園・保育園の年長児が対象) | <br>1回接種 |

(裏面もご覧ください)

## 4 予防接種による健康被害救済制度について

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。
- 健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
- ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。
- 予防接種法に基づく定期の予防接種として定められた期間を外れて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医療品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法と比べて救済の対象、額等が異なります。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、雨竜町住民課へご相談ください。

## 5 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行なうことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

●以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）。
- ②重い急性疾患にかかっている方。
- ③その日に受けるワクチンに含まれる成分でアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方。
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。

●次の方は、接種前に医師にご相談ください。

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。
- ⑤このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方

## 6 接種後の注意

- ①接種後30分間は医療機関にいるなどして様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ②接種後、4週間は副反応に注意しましょう。接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ③接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動はさけてください。
- ⑤接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日以上の間隔をあける必要があります。

問い合わせ先:住民課 保健担当 電話 77-2212